

「会員短信 25」

「ながら免許返納」 有富洋二

人生の半分は、「ながら」で過ごしてきた。テレビをつけながら新聞を開く。ラジオをかけながら本を読む。ドライブがてら俳句をひねる等々。自分では、かなり得手としていたが、いつの頃からかこの「ながら、がてら」ができなくなってきた。つまり二つのことが同時にはできない。一つのことしか集中できなくなってきたのである。残念！ これも加齢ということか。

さて、今から十数年前、八木健会長よりご指南をいただきながら覗いてしまった俳句の世界、その奥の深さに、とてとても「ながら」では務まらないということだけは、理解しているつもりである。そんな中でも所属していた会社のOBらとのネット句会にも参加したりしているが、不要不急の外出自粛が唱えられて以来、この際とばかりに句会の頻度がどんどん増えて少々とまどってもいるところである。

潔く「ながら」はあきらめて次は、「WITH」はどうであろうか。さりながら「WITH CORONA」はもうひとつ気が進まないが、今からの人生、あらためて「WITH HAIKU」でまた元気を出して歩いて行くことにしよう。

水平線ときに円らか水中花

ディスタンス等しく置かれ夜釣りの灯

射程距離キラキラ伸ばし大噴水

しゃぼん玉風の色して消えにけり

夕焼けをもろに食らって浜の猫